



未熟な老人

誰でも、子供の頃できなかったことが、成長して大人になるにつれてできるようになることが多いものです。さらに、勢いのあった若い頃には、これから先も、様々な面でどんどん進歩していけるのではないかと、漠然と考えていたものでした。

しかし、還暦を迎えた今、若い頃の自分からどれほど成長できたか、進歩できたか、振り返ると後悔ばかりが頭をよぎり、なかなか思い通りにはいかないことばかりだったように思います。

そんな中でこれから更に時を重ねていくにあたり、「老いる」ことについて自分を見つめ直さなければならぬと感じています。

人類の歴史の中では、多くの国や社会の中で「長老」という存在が崇められていました。長く生きることのできる豊富な経験や知識は、若い世代が物事を判断する上で欠かすことのできない貴重な情報源だったことでしょう。また、そのような実用面だけでなく、成熟した社会では、人々の間に、長く社会を支えてきた老人に対する、感謝や敬意や労いの心が根付いていたのだと思います。

現代社会においても、老人が大切にされるべきであることに変わりはありません。子供たちを将来の社会を支える人材として大切にすると同じように、生きている限り「誰もが行く道」である老人を大切にできる社会でありたいと、若い頃から思ってきました。

そんな思いを持ちながらも、これまで仕事や私生活で高齢者と関わる中で、希にはありますが、難しさや理不尽さを感じることもありました。

「最近の若者は・・・。」と苦言を呈する中高年の声を、よく耳にします。だらしのない若者もいれば立派な若者もいるわけですから、一概に「最近の若者は」とひとくくりにして考えることが間違っているのは明らかですが、同様に、社会を支えてきた老人に感謝し、敬おうとする気持ちがあっても、問題のある行動や言動が一部に見られると、「最近の老人は・・・。」というような風潮になってしまわないかと心配になります。

以下の内容は、これまでの経験から、これから老いていく**私自身が、自分に対して**言い聞かせていることです。

長く生きて多くを経験したつもりでも、一人が通る道なんて世界のほんの一部だろう。誇れるような道ではないが、もしも自分の道を誇りたい気持ちになることがあったとしても、他人の道をけなすことは、決してしないように気を付けよう。

また、自分なりの思いは誰にでもあって、誰もがそれを語っていいわけだが、うなずく相手だけを求めてはいけない。諂（へつら）う者だけを側におくようなこともないように気をつけなければならない。

私自身、年齢を重ねても未熟な部分を常に自覚し、これから更に自分を見つめながら、少しでも成長できるように、自分自身を改めて律して参ります。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・要望・提案・感想・校長に知らせたいこと など

2022年5月20日（ ）年（ ）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通です）